

こころ



平成23年(2011)・3月
編集発行 富山県教育委員会



砺波市立中学校「野菜を育てよう」

巻頭言

「そっと肩に手をかけ」

砺波地域特別支援連携協議会会長
南砺市立井波小学校長

神 田 政 一

特別支援学級に在籍する児童生徒数、学級数の増加や通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒数の増加は、新たな課題を生むことになり、その一つに特別支援学級や通常の学級の担任の専門性や指導力の向上があげられます。

一昨年、本校PTA主催の家庭教育学級において、日俣順子先生のご講演がありました。演題は「親と子 共に育つ」。聞く(聴く)ことの大切さ、お母さんを支えるお父さんの愛情、褒められることはうれしいけど、褒めることは難しい、何も言わず、ぎゅっと抱きしめてやることの重要性を訴えられました。今改めて思い返すと、この言葉は何か私たち教員にも当てはめて考えられるような気がしてなりません。

「はやくしられんか」「何しとんがけ」「こんなこともできんがけ」「ちゃん、ちゃあんとできるがに」「何もたまたしとるがけ」「はよ食べられんか」「はよ、はよ」など、子どもを急がず、そして子どもの行動が大人から見ても我慢がなくて、ついつい先ほどの「はよ、はよ、はよしられま」と、担任している子どもに言っている自分(教師)がいるのではないのでしょうか。でも、そんな言葉を発しているなど、毛頭

考えたことなどない自分。私たち大人の生活が、精神的な部分にまったくゆとりをなくしてしまっているのかもしれない。

そんなとき、「一歩ひいて見てみる」、「一瞬間をおいてみる」など、ほんの1分でも1秒でもいいのです。(それが待てないのが現実なのですが。)子どもの声に耳を傾けるゆとり、子どもの行動を待ってやるゆとりをもちたいものです。

そうすれば、子どもを理解できるきっかけ、子どもの心をつかむきっかけになると思います。子どものいいところも見えてくるかもしれません。いやなところも見えてくるかもしれません。それらすべてを受け入れてぎゅっと抱きしめてやる。そっと肩に手をかけてやる。そうされた子どもは何を今さら、気持ち悪い、恥ずかしいと最初は思うかもしれませんが。それでも続けてみてください。やっている自分も最初は恥ずかしいと思うかもしれませんが。でも、続けてください。子どもの反応はきっと違ってくると思います。

「そっと肩に手をかけ、黙っていても気持ちがあれば通じます。」

特別な支援を必要とする子どもに優しい教育は、すべての子どもに優しい教育です。

1年生をスムーズに受け入れるための、幼・保・小の連携の在り方

南砺市立小学校

はじめに

本校の校区内には幼稚園、保育園が8園あり、様々な形で幼・保・小の連携を行っている。年長児を中心に活動の場を工夫し、子どもたちがスムーズに小学校での生活に適応できるよう取り組んでいる。

本校での取り組みについて紹介する。

1 幼・保・小の組織的な連携

4月末、「幼・保・小連携推進事業連絡会」を開き、幼・保・小の関係者で1年間の活動計画について検討を行っている。(1)新1年生の授業参観、(2)年長児の運動会への参加、(3)夏季休業中の協力保育、(4)1年生と年長児の合同学習会等、子どもたちが喜んで学校生活を送れるようにするために、その活動内容について共通理解を図り、園と小学校との連携を図っている。

(1) 新1年生の授業参観

5月半ばに、新1年生がどのように学校生活を送っているか、幼稚園・保育園の旧担任が授業を参観する場をもっている。参観後、小学校担任が子どもたちの生活や学習の様子について説明し、小学校に適應していくためにどのような配慮や支援が必要か、意見を交換している。子どもの支援の在り方を考える上でよい機会となっている。

(2) 年長児の運動会への参加

5月後半の運動会では、来年の入学児童が「なかよしレース」に参加している。これは、5年生児童と一緒に走ったり輪をくぐったりしてゴールする競技である。ゴールして5年生手作りのメダルをかけてもらう子どもたちは、本当にうれしそうである。

(3) 夏季休業中の協力保育

本校の教諭が、夏季休業中に各園を訪問し、保育体験を行っている。プール遊びや自由遊び、当番活動の様子を参観する。園の担任から就学について配慮を要する子どもについての情報を得る機会でもある。園での対応の方法を聞くことにより、入学してからどのような点で支援が必要か参考にすることができる。

(4) 1年生と年長児の合同学習会

10月に、1年生と年長児と一緒に小学校で学習する場をもっている。生活科の学習で、ペアになって学校探検をしたり、集会を開いて歌やダンスをしたりして楽しく触れ合う。園の担任によると、この学習によって小学校生活への希望と期待感を膨らませる子どもたちが増えるという。また、年長児の活動の様子から、集団の中でどのような配慮が必要かを知ることができるということである。

2 就学に悩みをもつ保護者との個別懇談

就学に悩みをもつ保護者には、あらゆる機会をとらえて特別支援学級の学習や学習発表会の様子などを参観してもらうようにしている。保護者の中には、不安を抱えながら学校に足を運ぶ方が多いが、子どもの活動を実際に参観することで安心し、その後懇談することによって個に応じた支援のよさを感じてもらえることができるよい機会となっている。

終わりに

特別な支援が必要な子どもの就学にとって何より大切なことは、保護者の理解である。そのためにも園と小学校との連携を密にし、子どもが一番必要としている支援は何かを見極め、適切な対応をしていく必要がある。子どもが笑顔で学校生活を送れるよう、今後もよりよい連携の在り方を考えていきたい。



通級指導教室における連携の工夫

黒部市内小学校通級指導教室担当

1 はじめに

今年度、私は、黒部市内で学習障害通級指導教室（以降、通級指導教室）を担当している。子どもの人数が多く、それぞれの子どもの実態が様々な上、指導時間も限られているため、より正しく実態を把握し、一人一人に応じた支援を行っていくには、在籍級担任や保護者との情報交換や連携が不可欠である。試行錯誤の日々の中、通級指導教室における連携についてこれまで取り組んできたことを紹介する。

2 担任との連携

(1) 検査による実態把握

より詳しく実態を把握するため、子どもに応じてWISC を実施した。検査結果から得意なことや困難としていることを担任に伝え、学習や生活場面における支援方法についての共通理解を図るようにした。子どものつまずきを知ることにより、在籍級でのより具体的で効果的な支援方法を考えることができた。

(2) 通級指導教室の授業参観

校内研修において、担任や他の先生方に通級指導教室の授業を参観してもらった。授業参観により、通級指導教室での子どもの様子、学習のねらいや内容、支援方法について知ることができた。

(3) 発表の場の設定

通級指導教室で取り組んだことを担任や友達に発表する機会を設けた。

物語を考えたり、絵を描いたりすることが好きな子どもと一緒に、紙芝居作りに取り組んだ。紙芝居作りは子どもが以前から望んでいた活動であり、「担任、友達、家族、他の先生方に見せたい」という思いが強く、意欲を持続して集中して活動に取り組むことができた。完成した紙芝居をうれしそうに持ち帰って、担任や友達、家族に見せ、後日、「みんなに見てもらって、うれしかった」と感想を話した。

また、発表する場を設けることで、通級指導教室で取り組んでいることを担任や友達に知ってもらうことができた。そして、子どもは、自

分のがんばりを相手に認めてもらえた大きな喜びや充実感を味わうことができ、学習への意欲を高めることができた。

3 保護者との連携

日ごろから、連絡帳や面談を通して保護者と情報交換を行っている。保護者の願いを参考に通級指導教室における指導内容を厳選したり、悩みを聞いて支援方法をアドバイスしたりしている。

(1) 「がんばりカード」の活用

よりよい行動を目指し、「がんばりカード」の取り組みを行った。シールを励みにした「がんばりカード」は、子どもの意欲や持続する力を高めることに有効であった。支援の際には、めあてや評価の観点を明確に保護者に伝え、保護者が負担なく取り組むことができる方法を提案するように心がけている。

(2) 支援ツールの活用

手順表やスケジュールカードなどの支援ツールの提供を行った。朝の身支度の取り組みでは、家庭での生活の様子を詳しく聞いて手順表を作成し、子どもの実態に合った方法を提案し、家庭で取り組んでもらうようにしている。

4 その他の連携

他校から通ってきている児童の支援にあたり、在籍校の特別支援教育コーディネーターと連絡を取った。情報交換を行うことで、通級指導教室の様子や在籍校での気になる様子について共通理解を図ることができ、担任と通級指導教室担当者をつなぐパイプ役となってもらうことができた。今後、さらに積極的に連絡を取ることで、連携を深めていくことができると考えている。

5 おわりに

子どもが抱えている困難を改善・克服し、在籍級や家庭で生きる力を身につけるための一人一人の子どもに応じた支援には、担任や保護者との連携を密にして、実態や支援についてできるだけ多くの情報を共有することが鍵となる。

今後も自己研鑽を積み重ね、より効果的な連携の在り方を探り、工夫を行っていきたい。

シリーズ「今、ここが知りたい！」 読み・書きの指導 編

Q 1 読むことがむずかしい子どもの指導には、
どのような方法がありますか？



(1) 文字を一文字ずつ拾うようにして読む場合(逐字読み)

考えられる要因

文字の読み方が分からない
どこで切って読めばよいか分からない
ことばの意味をとらえられない

- ・ 読みにくい漢字には仮名をふる
- ・ 言葉のまとまりごとに区切りの線や色をつける
- ・ 間違いやすい言葉、難しい言葉に印をつける
- ・ 内容がイメージしやすいような挿絵を入れる

(2) 文字や行を飛ばして読んでしまう場合(とばし読み)

考えられる要因

文字を目で追うことが難しい
周りの文字に視線がいつてしまう
どこから読めばよいか分からない

- ・ 指で文字をなぞりながら読ませる
- ・ 物差しなどをあて、読む行に注目しやすくする
- ・ 文の始まりに番号を振っておく
- ・ 付箋で始まりと終わりの目印をつける

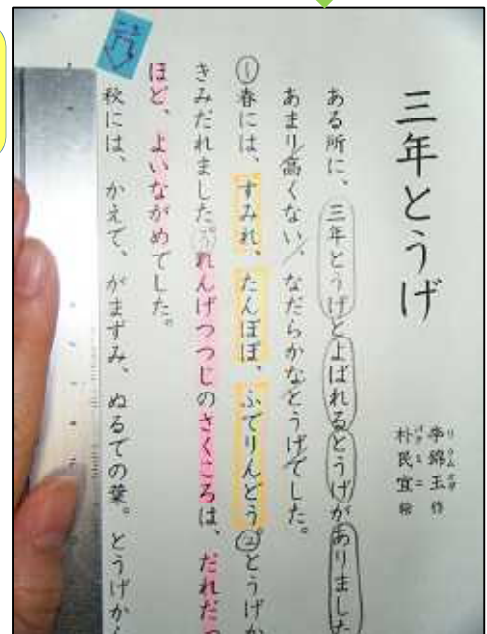
(3) 音読できるが、内容をとらえることがむずかしい場合

考えられる要因

声に出して読むと、内容を思い浮かべることが難しい
意味の分からないことばがある
言葉の関係性が分からない

- ・ 音読の後、もう一度黙読させる
- ・ 図や絵など、内容をイメージしやすいような手がかりを示す
- ・ キーワードとなる言葉や文に印を付けて意識しながら読ませる
- ・ 「だれが」「なにを」「どうした」など書き出して内容を読み取らせる
- ・ 情景や感情などを表した絵の中から、文とあっているものを選ばせる

苦手意識をつくらないうために焦らせず、
自分のペースで読ませ、読んだ後は
まずは、褒めることを心がけましょう



「読み書き」には、「話し言葉」の発達が必要なポイントとなります。

経験したことや、自分の気持ちを言葉に表したり、「～だから」「でも～」などの接続詞を使って状況を詳しく話したりできる段階に達しているかどうかにも配慮していきましょう。

Q2 書くことがむずかしい子どもの指導には、どのような方法がありますか？



(1) 字の形が整わず、読みにくい字を書く場合

考えられる要因

手指のコントロールがうまくいかない
線や点の位置関係をとらえることが難しい
枠と文字のバランスをイメージして書くことが難しい

- ・マス目の大きさを大きくする
- ・なぞり書きの練習をさせる
- ・間違いやすい部分を で囲み、注目しやすくする
- ・マスに 補助線を入れ、バランスをとりやすくする

(2) 文字を書き写すことに時間がかかる場合

考えられる要因

どの部分を見て書けばよいか分からない
文字の形を記憶することが難しい
言葉のまとめりとして見ることが難しい

- ・注目する場所に印を付けたり、文字の色を変えたりする
- ・手本を側に置く
- ・声に出して読ませてから、写させる
- ・写す量を減らす

(3) 漢字を書く際、左右が入れ替わったり細かい部分を書き誤ったりする場合

考えられる要因

細部に注目することができない
線の数をとらえることが難しい

書く量を減らし、書くことへの抵抗感を少なくすることも大切です

- ・間違いやすい部分を で囲む
- ・部分に分けて練習させる
- ・言葉に出して言いながら、書かせる
(例：「窓は、うかんむりに、八、ム、こころ」)
- ・「とめ」「はね」「はらい」に印をつける

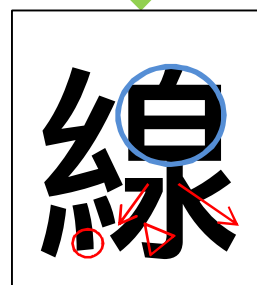
(4) 作文や日記が書けない場合

考えられる要因

出来事を思い出すことができない
経験したことや気持ちを言葉に表すことが難しい
文章を順序立てて、書くことができない
「～して楽しかったです」などワンパターンの表現になってしまう

(手順の例)

- ・写真や絵などを手がかりにする
- ・十分に話をしてから書かせる
- ・思い出したことをメモに書き出す
- ・そのときの気持ちを書く
- ・「いつ、だれが、何を、どうした」の型で書かせる
- ・文を出来事の順番に並べていく



線 = 糸 + 白 + 水

「糸の横に白い水、線に沿って並べよう」



ちょっと拝見!



特別な支援が必要な児童への指導：算数科「わり算の筆算」

(富山市立小学校)

4年生からわり算の筆算を学習します。しかし、この学習でつまずき算数が分からなくなり嫌いになる児童が多くいると感じています。特に〔商を立てる場所 仮の商を立てる 手順〕でつまずくことが多いようです。そこで、児童のつまずきに応じたプリントや手がかりのカードを使って学習を進めています。(下記の教材は、3桁÷2桁の筆算の定着を図るための例です。)

商を立てる場所を学習するプリント

算数プリント (月日) 名前

商を立てる場所をさがす。初めの2けた同士をくらべよう。

★下の式の口に上と同じように商を立てないところに×を書きましょう。

① 23) 146	⑥ 34) 958
② 24) 883	⑦ 18) 643
③ 57) 609	⑧ 42) 391
④ 64) 482	⑨ 64) 693
⑤ 36) 854	⑩ 58) 569

仮の商を立てるときのヒントカード

仮の商を立てるヒントカード **小さい位をかくして考える**

A: 商を十の位から立てる

90 ÷ 30で仮の商を考える

B: 商を一の位に立てる

250 ÷ 30で仮の商を考える

割られる数と割る数を切り捨てて仮の商を考えます。これによって、商の修正は数を減らすだけになります。

手順ヒントが書かれた筆算プリント

算数プリント (月日) 名前

A: 商を十の位から立てる

B: 商を一の位に立てる

① 27) 609	② 34) 258
③ 18) 673	④ 64) 398

2桁で割る場合には、割られる数の位の大きい方の2桁と大小をくらべ、商の立てられる場所を探します。

手順が書かれたヒントを見ながら問題を解きます。

【児童の変容】

- ・手がかりがあるため、自分で解こうという意欲をもって取り組むようになりました。
- ・ヒントがなくても手順が分かって解けるようになってきました。

<編集後記>

今回も「連携」をテーマに編集し、幼・保・小の連携と特別支援学級等における連携の工夫について、先進的な実践例を示しました。また、シリーズ「今、ここが知りたい」では「読み・書きの指導」について支援の具体を写真や図で示しました。また、「ちょっと拝見」では、「わり算の筆算」について、実際の教室での取り組みを紹介していただきました。日々の実践の一つでも生かしていただけたら幸いです。事例や原稿を寄せていただいた皆さんに心より感謝申し上げます。(編集者一同)